

同じマンションに住む



ナマイキな人妻の常識をすり替え

世話になったな
お前達……

名残惜しいが
スペースの関係上
今日でお前達とはお別れだ

自由気ままな社会人を
目指した俺は
在宅プログラマーとして
一人暮らしを始め
誰に咎められることもなく
エロ本に塗れた生活を楽しんでた



……はずだった

これでよしと

ちょっと——
“よし”じゃない
でしょう上地さん

何度言ったら
わかるんですっ

子供も立ち寄る
ゴミ捨て場に
こんな不潔な本を
そのままに出さないで
下さいっ

大体あなたは——



この女は**兵藤ユリ**という

同じマンションの住人の一人で
外資系だかなんだかの旦那と
中学生くらいの男の子を家族に持つ**人妻**だ

…この女は酷く俺を目の敵にしている

始まりは一年程前：

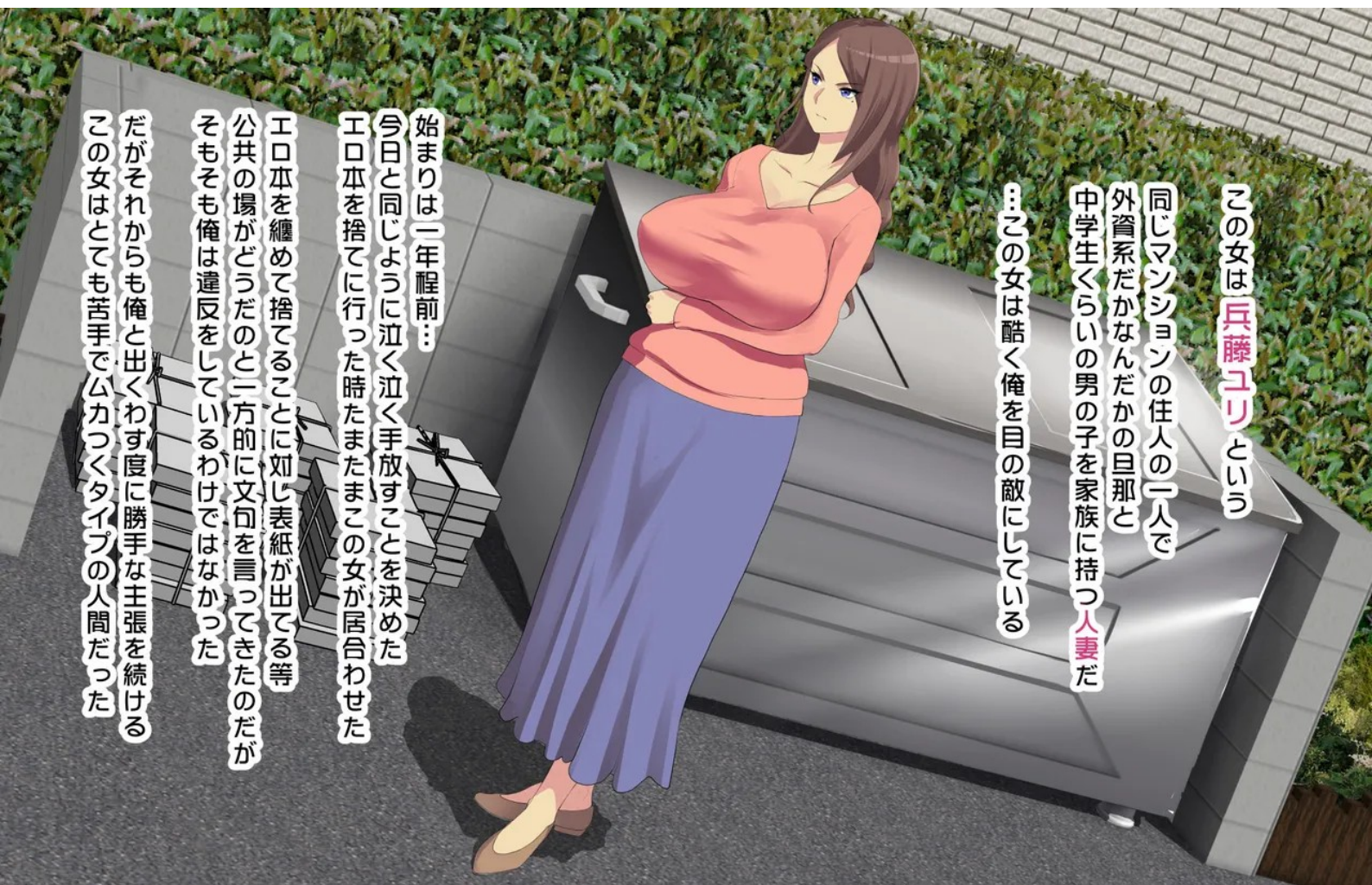
今日と同じように泣く泣く手放すことを決めた

エロ本を捨てに行った時たまたまこの女が居合わせた

エロ本を纏めて捨てることに対し表紙が出る等

公共の場がどうだのと一方的に文句を言ってきたのだが
そもそも俺は違反をしているわけではなかった

だがそれから俺と出くわす度に勝手な主張を続ける
この女はとても苦手でムカつくタイプの人間だった



だが：見て分かる通り
見た目だけは極上の女だった

ちょっと——
聞いているんですか?!

キツめでありながら芸能人レベルに整った顔立ち
そしてGカップ超えはあろうかという巨乳と
するりと子供が出てきたであろうデカ尻！
今は隠れているが程よくポチャッとしているのが
また素晴らしい！
ム力つくがこの女は俺の性癖どストライクだった

だから持てる技術全てをかけて作ってしまった
人を無意識下で操る『催眠状態』を誘発するアプリ

起動ボタンを押すと脳を無防備状態にする高周波を発生し
画面に打ち込んだ文字を刷り込まれてしまうという代物だ

人が話しているというのに
スマホを弄るだなんて…
ほんとこういう教育を受けて
きたのかしら…

いやあすみません
ちよつと兵藤さんに
どうしても見せたい
ものがありました…

これなんですがね

起動ボタン

off



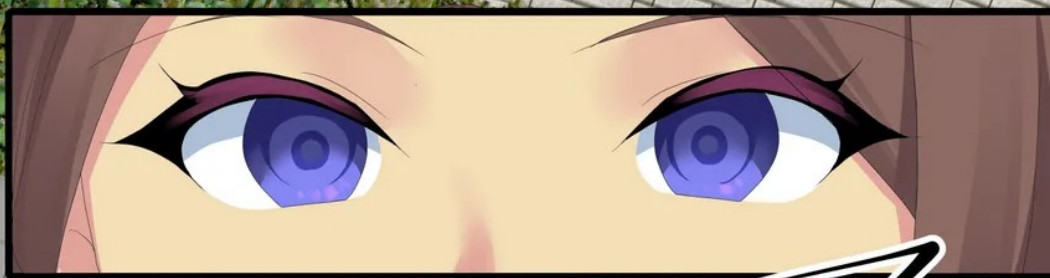


そうやって見せつけた
タイミングで俺は
起動ボタンを押す

ちょっとこれを見
て下さいよ

これですこれ

なに？
一体何を――



すると今の今まで
怒気を含んでいた
女の表情が一瞬緩む

やった!!

あ…

この表情は知っていた
実は既に知人で軽い
実験を成功させていたのだ

だから確信を持って言える
今の女は…言われた言葉を
絶対の物と認識するのだ

ボタン
催眠モード

上地サトルが「常識」と言った時
彼の言うことは誰もがやっている
一般常識と認識すること



まったく…
最初からこうしていれば
良かったんです

すみません…
人妻は性欲を持て余した男性の
ちんぽを満足させなければ
ならないんですもんね

そうです
一体私がどれだけの間
やきもきしていたと
思っているんですか

おふっ♥

そうですね…
迷惑になるんじゃないかと
本に頼っていた
僕が間違っていました



お言葉に甘えて
処理をお願いしても
いいですか兵藤さん？

何を今更…
その気がないのなら
今こんなことをしていません

そう言いつつ今度は両手で
ちんぽをさすり始める兵藤さん…
大事なモノを扱うかのように丁寧に…

ああ…間違いない
間違いなくこの女は俺の言うことは
常識だと思っている

ですね…ふふっ
ありがとうございます

にゅにゅ
にゅにゅ
にゅにゅ



それにしても…
本当なんんですか
このおちんちは

“常識”では
それはちんぽって
言っんですよ
ぽぞ…

わかっていますっ

朝っぱらからこんなに
ちんぽを勃起させていることを
言っているんです
…汚らしいっ

すいません…
でも生理現象なもので…
僕にはどうしようも…

あっ
そこ…そこイイです♥



ああ…っ
兵藤さん…カウパーも…
カウパーも吸ってっ

ちんぽを舐めながら
シゴいてください

こ…こっね…
わかったわ…んっ

あ…っ
そう…そうです♥

あ~~~~~♥
気持ちいい♥

これはいい…
今まで俺に嘸み付いてきていた
女が今では文句を言いながらも
文字通り俺のちんぽを舐めている…
やばいすげえ興奮する…っ



それに――

うおっ
おおおおっっ ♡

いちいち
うるさい人ねっっ

というかこの男のちんぽ…
大きすぎじゃない…？

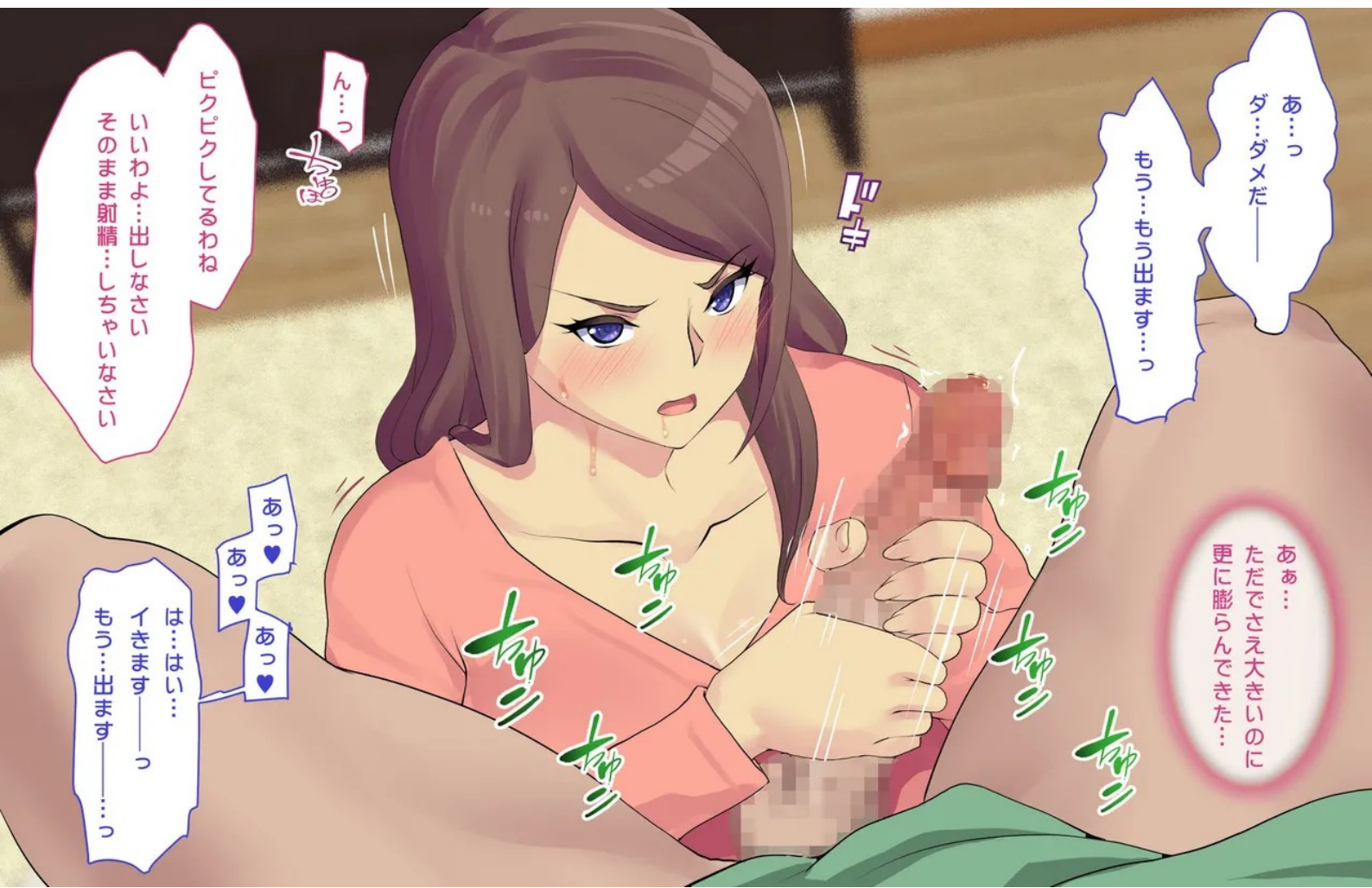
夫の二倍くらい
あるんじゃ…

イイっ
凄く…良いですよ…
兵藤さん…っ ♡

さすが人妻と言うべきか
ちんぽの弱い部分を
しっかりと攻めてくる

お硬い人間かと思っていたが
十分に男を喜ばせてきたようだ





あ...っ
だ...ダメだ

もう...もう出ます...っ

ああ...
ただでさえ大きいのに
更に膨らんできた...

ド
キ

ん...っ

ん
ん

ピクピクしてるわね

いいわよ...出しなさい
そのまま射精...しちゃいなさい

あっ♡

あっ♡

あっ♡

は...はい...

イきます...っ

もう...出ます...っ

たっ
たっ

たっ
たっ

たっ
たっ

たっ
たっ

たっ
たっ



えーっ

え…え…?
なに…?
なにこの量…

精液ってこんなに
出るの…?

うあああああ

ビュル
ブル
ブル



な…なんて量
出してるのよ…

こんな量の精液…
見たことない…

す…すいません…
ちよっと興奮しちゃって

ま…まあ満足した
ってことよね
これに懲りたら—

…は？

……え？

この女は一体何を言っているのだろうか

まるでこれで自分は性欲処理の役目を果たしたかのような物言い……

そんなわけはない……

そんなわけはないのだ

人妻がそんな当たり前のことを知らない筈はない……

そう――

男が一回の射精ごときで満足するわけがない……ということ……





え...あ...
なん...で...?

なんでも何もありませんよ
一回で収まるわけ
ないじゃないですか

え...
そ...そうなの...?

そりゃそうですよ

キラ...

キラ
キラ
キラ

知らないフリして早く
終わらせようって
そうはいかないですよ

旦那さんだって
そうでしょうが

...え
お...夫は...

そりゃ個人差はあると
思いますが俺は少なくとも
オナニーだって連続五回
しないと収まらないですよ

ご…五回…っ?!

だってあの人は一回射精
したらすぐに寝て……

夫はそんなに性欲が低い…
そ…それとも私の魅力が…?

キュッ



い...いいえ
そんなこと...っ

な...なんて呆れた
男なのかしらっ

盛りのついた
猿じゃないっ

ははっ
そのまま野に
放ちますか？

そんなこと許されるわけ
ないでしょうっ

いいわ...
こうなったら本気で
相手してあげますっ



そう言うとは兵藤さんは
大きく口を空け
俺のちんぽをしゃぶり始めた

先端を舌先でノックするように
舐られ指先だけの適度な握りで
根本を扱かれる

おっっ♡

ははっ
いいですね
先っちょ気持ちいいです♡



ん

ん

ん

ほんとなんて大きなの…
半分も口に入っていない…

こんな美人が一心不乱に頭を動かし
ちんぽにむしゃぶりつくとは
ちょっと前まで考えもしなかった

だが――

だが正直加え方が浅すぎて
いまいち射精まで導かれない





すみせん兵藤さん
もつと奥まで啜えて
くれませんか

おごおおおっ

グッ

ズッ



んっ

お...お...お

おぶっ

お...お...お

Foh

Foh

Foh

Foh

Foh

お...お...お

お...お...お

ああ〜これっ
これですよこれっ

まるでマンコに挿れたかのような
ヌルヌルとした締めつけ…
求めていた快感が俺を昂ぶらせる

だがその気持ちよさも束の間
あまりの苦しさで兵藤さんは
力いっぱい抵抗してきた

ぱん

ごほう

ごほう

ごほう

ちょ…ちょっと
無茶しないで

ああ…すみません
つい……

はー

はー

つい…じゃないわよ…
あなたのちんぽは…その…
大きすぎるんだから
全部啜えられるわじゃないでしょうっ

え？



驚いた…

風俗店とかでもデカイデカイとは
言われていたが

正直営業トークだと思っていた

しかし兵藤さんがそんなお世辞を
言う必要はない…

ということは俺のちんぽは
本当にでかい部類なのか…？

その事実を認識した俺は
正直嬉しくなっちゃいまい
今おかしな事への反省もそこそこに
どんどんと調子に乗っていく
ようになった



ならそのたわわなおっぱいで
パイズリしながら舐めて
くれませんか

まよとん

パイ…ずり…?
なにそれ…??

あれ?
旦那さんに要求された
ことないんですか
勿体ない…

パイズリってのは
おっぱいでちんぽを
挟んで扱くことですよ

な——っ
そんなこと出来るわけ…っ

意外にも兵藤さんはパイズリを
したことがないらしい
先程のフェラから遊んでいたのかと
思ったがそうでもないらしい



ならばと俺は彼女に
新たな扉を開けさせる
ことにした

ええっ嘘でしょ？
Eカップ以上の人は
パイズリしなきゃいけないの
なんて“常識”ですよ？

夫婦揃って実は
常識知らずだったんですね

だ…誰にだって
知らないことの
一つや二つあるわっ

知らなかっただけで
やり方さえわかれば
出来るわよ

こ…
こうでしょ

おぼん

おぼん

おぼん

おぼん

おぼん

そう言っただけで実際にちんぽを挟んだ
兵藤さんの胸はやはり大きく
俺のちんぽはほとんど埋まってしまった

おほっ
いい弾力♥

ムキム



いくわよ

うわ

うわ

んっ♡

んっ♡

んっ♡

うっく...

んっ♡

うわ

それにしてもこの乳圧...
でかいとは思ってたけど
ここまでとは...

風俗でもこんなの
味わったことないぞ

タボッ

タボッ

タボッ

タボッ

タボッ

んっ♡

んっ♡

んっ♡



う…くっ
…ヨダレ垂らしたら
もっと滑りよくなりますよ

な…
なるほど…

ロー…
ロー…

ロー…
ロー…

んあああっ♡

ふふっ
何よその
情けない声は♡

潤滑油の投入によりさらなる
快感が背筋を伝い思わず声を漏らす

俺の反応に気を良くしたのか
はたまた余裕が出たのか
兵藤さんはこちらの反応を確かめつつ
さらに激しくデカパイを揺らし始めた



くお…おおおっ♥
すげえ…いいですよっ
兵藤さん——ッ♥

高速パイズリに先フェラまで
加えられ腰が抜ける程の
刺激が襲う

勘が良いのか
やはりエリートなのか…
俺の反応を見て兵藤さんは
どんどんと学習していく

あっ

あっ

あっ

あっ

やば

あっ

…もう…っ
ダメかも…っ





ああ——
ダメ——っ

兵藤さんそれダメッ
イク——ッ
いへいへいへッ♥

出る——
出ますよ兵藤さんっ

くち——
口で吸け止めてッ

ふえ……っ?!
待っ——
く…口へはひゃふがに……

ねる
ねる
ねる

にゅにゅにゅ

にゅにゅにゅ

にゅにゅにゅ

にゅにゅにゅ

にゅにゅにゅ

にゅにゅにゅ





ああ……あつ……
あ………う

……ひゃ……ひゃうじゅあ……
な……く……く……る……の……ひゃあ……

しかも二回目なのに
全然量が変わって
ないじゃない……

口の中が……この男の精液の
匂いでいっぱい……
……なんだか身体も……
……熱い……♥

はあ……はあ……
ははっすいません
凄く気持ち良かった
んで……つい♥

ゴハッ

ゴハッ

ゴハッ

ゴハッ

ゴハッ
ゴハッ
ゴハッ

ま…まだそんなに
勃起させて…

し…仕方ないわね…
おまんこも使わせて
あげるからさっさと
全部吐き出さない…♡

そう言いながら俺に
見せつけるように開いた
兵藤さんのおまんこは
濡れすぎて太ももにまで
愛液が垂れていた

うおっ
マジすかっ

なんだ…?
突然積極的になったぞ



凄まん汁
じゃないですか

もしかして
ちんぽ汁飲んで
興奮しちゃいました？

バ：馬鹿なこと
言わないで…っ
ただの生理現象です

あなたの猥褻チンポを
受け入れる為には
濡らしているわけでは
ありません…っ

そう否定はしていたが
肝心の兵藤さんのおまんこは
ちんぽが欲しそうにずっと
ヒクヒクとしていて
そのチグハグさが逆に俺の
興奮を誘っていた

わかりました…
それじゃお言葉に甘えて
挿れますよ…っ

グ
イッ

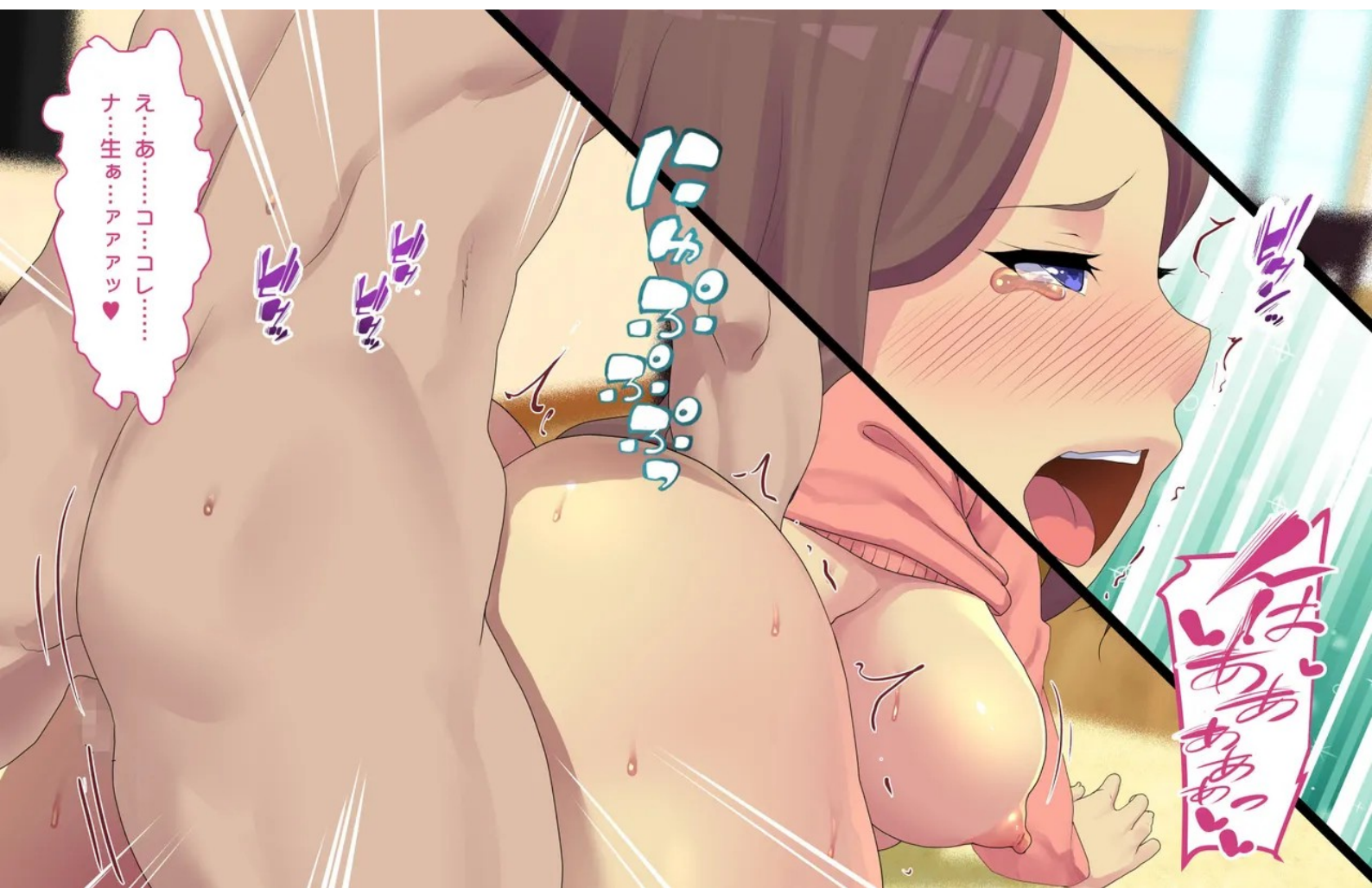
ドゥン

ドゥン

ドゥン

ドゥン

ドゥン





何言ってるんですか...っ
台意の元なんですから
生でSEXするのなんて
『常識』じゃないですか

そ...そっいえば.....

そう...だった...♡

ちょ...ちょっと...あつ♡
な...なに生で挿れて...
ふんッ♡





はっ♡

あへん♡

あ♡

ダメ——♡
イッちゃう——
すべキちゃう…♡

はっ♡

はっ♡

このままこの男に
一瞬でイカされちゃう…♡♡

こんなに気持ちいい
なんて——♡♡

あ♡

ん♡

ん♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡



くっ 駄目だ……っ
すげえ吸い付きで…
気持ちよすぎる…っ

はっ♡

はっ♡

はっ♡

ま…待つへ……っ♡
もっとゆっくり…♡♡
じゃ…じゃないと私…
もう………ッ♡♡♡

ぐっ

ぐっ

む…無理ですっ
こ…腰が止まらないっ

ズン

ぎゃううう——っ♡

あぁ…ウソ——ッ♡♡♡
もっと…
もっと強くなって——♡♡♡



ぐわわわ
で...出る
ッ
出る出る出る...っ
人妻マンコに...
生ザーメン出るうううっ

イク
——♡♡♡
いくいく
——♡
わたひも...っ
わたひも
イツひやううううっ♡♡♡

それは先程までの
堅物とは思えない程の
下品なメスの嬌声だった



それは普通の人ならば
引く程の下品な声だった
かもしれない…

ほお…おお…ん♡

だがその多幸感で
頭が真っ白に
なっているであろう
兵藤さんのメスの顔を
見ながら聞く俺にとっては

更なる血流がちんぽに流れる…
刺激的なスパイスでしかなかった

おっ♡

おっ♡

おへ…♡

お…お…っ♡
おお…おお…♡♡♡

ぽっ…



何言ってるんですか
俺だって今
イッたばかりですよ

そ...そうでしょ...っ?!
だからちょっと休憩して...

グイッばかりで
わたし...っ

ちょ...ちよっと
待って

えっ



俺のちんぽ…
ずっとバッキバキのままに
なっちゃってるんですよ
でも兵藤さんが
あんなにも
エロい声出すから……

え…っ
わたしの…
声…で…？

あ…ああ…
本当だわ…
まだあんなにも
苦しそうにパンパンに
膨らんで……

あれが…私のせいで…
私の声で…あんなに
なっちゃってるって…いうの…？





ら...らめえ...っ♡
イ...イキマンコ...おおっ♡
そんなに激しく...
コスっちゃ.....

らめえええええっ♡♡♡

ぐ...うら...
さっきより...
締め付け...
う...う...う...

んおっ♡

おっ♡

おっ♡

おっ♡

おおんっ♡

っっっ

っっっ

っっっ

っっっ

っっっ

っっっ

っっ

っっ



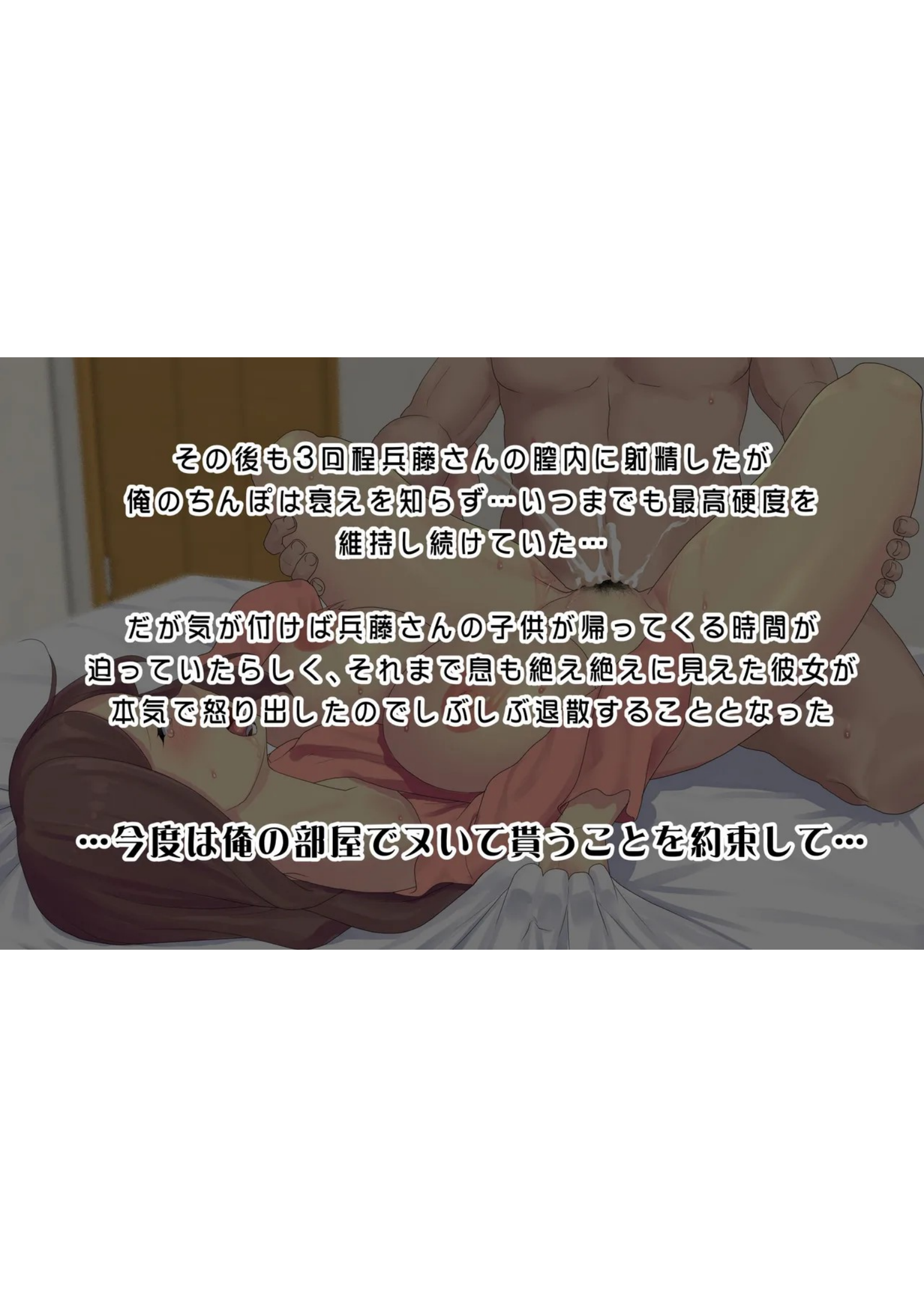


イクイクイクッ♡♡

イッへる——ッ♡
またイッへるひやらあッ♡♡

おおおっ
俺も……
俺もまたイク——
また兵藤さんの中に……
人妻マンコの子宮の中に……
大量ザーメン
流し込みますよおおっ





その後も3回程兵藤さんの膣内に射精したが
俺のちんぽは衰えを知らず…いつまでも最高硬度を
維持し続けていた…

だが気が付けば兵藤さんの子供が帰ってくる時間が
迫っていたらしく、それまで息も絶え絶えに見えた彼女が
本気で怒り出したのでしぶしぶ退散することとなった

…今度は俺の部屋で又いて貰うことを約束して…



次の日

ちよ…ちよっと——
部屋に入るなり何いきなり
がつついてきてるのよっ

はあ…っはあ…っ

すみません…
昨日のこと思い出したら…
つい——

ほら…
昨日は不完全燃焼のまま
終わっちゃったし

実際限界だった…

昨日…不完全燃焼のまま帰ってきた俺は
だがしかしそのまま自慰で全てを吐き出す
ことはしなかったのだ





んあっ

き…昨日あれだけ
したのにまだ
収まらないなんて…

本当になんて性欲の塊なの…
旦那からはこんなに強く
求められたことなんて一度も

性欲なんて
寝て起きれば
いくらでも補充されますよ

むしろこんな美人と
出来るんなら尽きるこ
とすらありませんっ

えー
び…美人……っ？

って何動揺して
るのよ私——
こんな男にお世辞
言われた程度で……っ

ん~~~~っ
フッ

って何キスしようと
してるのよっ

勘違いしないで
私はあなたの恋人ではないのよ
ただ性欲処理をしている
だけなんだからっ

あ…
やっぱダメですか

つい流れるにキスしようと
してしまったが
どうやらキスはSEXとは
別のカテゴリだったらしい

昨日の様子では
タイミング次第で
出来そうだったんだが…







でもほら
乳首なんてこんなに
勃起してますよ？

きやううつ♡

いきなり
ちくび摘んじゃ
ダメえええっ♡♡♡

や
そんな...

あ
あ
あ

あ
あ

ん
ん



イク...ッ
イッちゃう

はっ

はっ

はっ

まだ裸にすらなっていないのに乳首だけで
イカされちゃう...ッ

それに乳首いじくり回してた時
兵藤さんのおまんこきゅーきゅー
締まってたんですよ？

わかった...
わかったから

お願いだから
乳首ばかりそんなに
コリコリしないで...ッ

ふうふうふうっ♡♡♡

ははっ
ほらやっぱり
兵藤さん乳首
めっちゃヨワじゃないですか

やはりおっぱいは
弱かったのだろう
兵藤さんは言葉にこそ
しなかったものの
嬌声を轟かせ身を大きく
震わせながらイッてしまった

屈辱だわ...っ
まさかこの男に
こんなに早く...
しかも胸だけで
イカされるなんて...

うあっ
あっ
あああっ
兵藤さ——
激しすぎ——っ

うるさいわねっ
さっさと射精
しちやいなさいよっ

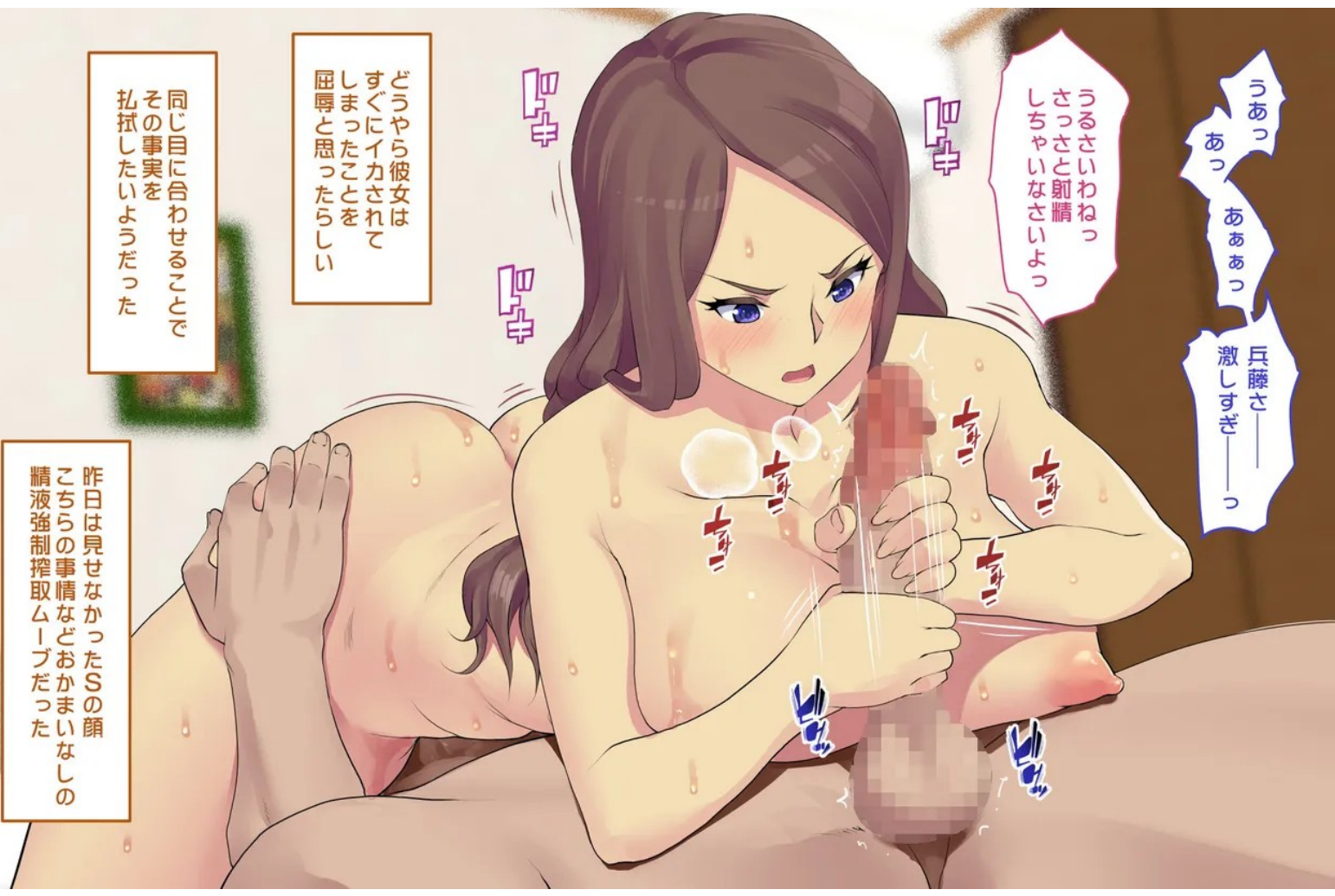
四
中

四
中

どうやら彼女は
すぐにイカされて
しまったことを
屈辱と思ったらしい

同じ目に合わせることで
その事実を
払拭したいようだった

昨日は見せなかったSの顔
こちらの事情などおかまいなしの
精液強制搾取ムーブだった



ほらほらほらっ

もうイキそう
なんでしょう？

さっさと出さないっ♡
出しちゃいなさいよ——っ♡

我慢がきかずだらしく
射精する所を
見てあげるから
今すぐびゅーびゅー精液
射出しちやいなさいっ♡♡

ふっ

ニッ

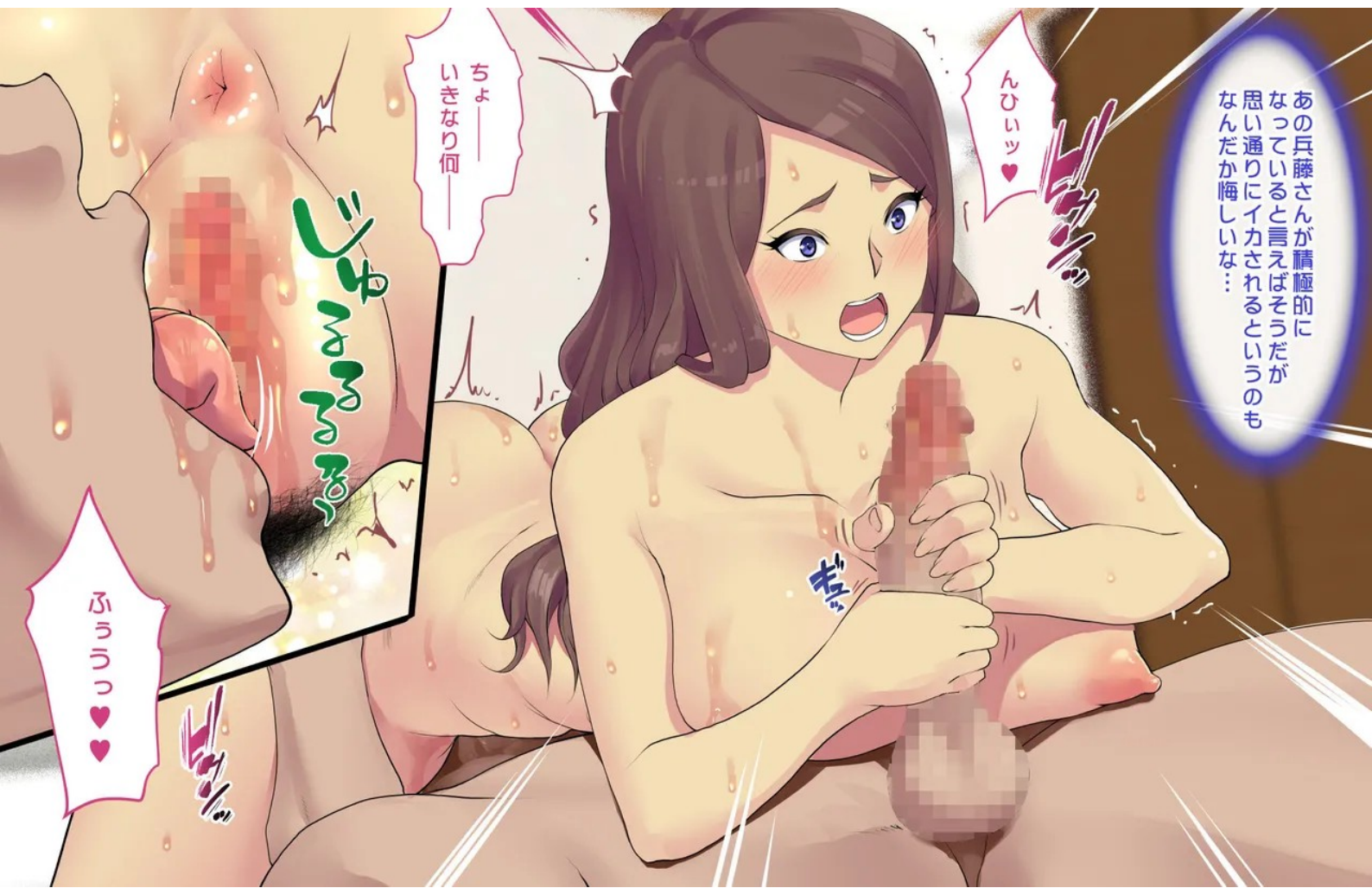
ニゅっ
ニゅっ
ニゅっ

ニゅっ
ニゅっ
ニゅっ
ニゅっ
ニゅっ

ぎゅっ

あ……ッッ
あああ——ッ♡

巧みな手技で俺は
即イキさせられそうになる



ちよ
いきなり何

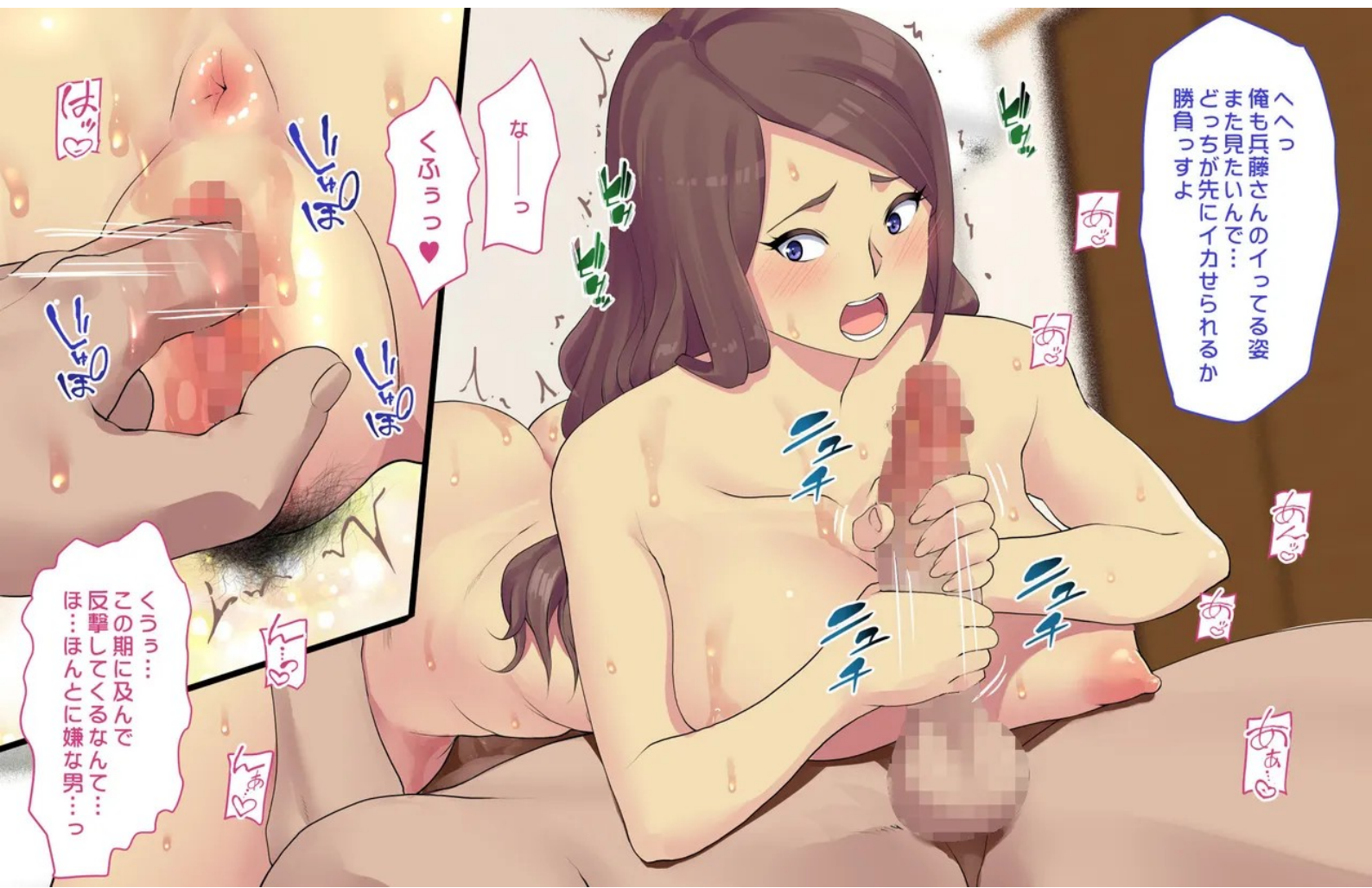
んひいッ♡

あの兵藤さんが積極的にな
っていると言えばそうだが
思い通りにイカされるとい
うのもなんだか悔しいな...

ふうっ♡♡

ぐわんぐわん

ぎゅ



へへっ
俺も兵藤さんのイってる姿
また見たいんで…
どっちが先にイカせられるか
勝負っすよ

な
—っ

くぶうっ
♡

ほっ
ほっ
ほっ

ほっ
♡

くうう…
この期に及んで
反撃してくるなんて…
ほ…ほんとに嫌な男…っ

あ…
♡

あ…
♡

あ…
♡

あ…
♡

あ…
♡

あ…
♡

あ…
♡



うん...うん

うん...うん

うん...うん

うん...うん

うん...うん

うん...うん

うん...うん

くあーあッ

そ...それは...
や...バイ...ッ

うん...うん

うん...うん

うん...うん

うん...うん

兵藤さんは先程までとは
比べ物にならない程
深く啜えこみ俺は一気に
射精感を高められてしまう



う…くっ

う…っ

ふうっ♡

うっ♡

う…っ♡

ぶはっ

ひよ…兵藤さん
お…奥まで啜えてくれるのは
嬉しいですけどそんなに
頑張らなくてもいいですよ…?

昨日は奥まで啜えて
えづいてた癖に…
な…なんて負けず嫌いなんだ…っ

あ…あら…
別に頑張って
なんか…んっ♡



あなたこそ気を
使わずに...んうっ♡

空っぽになるまで
私のフェラチオで
射精し続けて
いいんですよ...?

ん...ん...ん...

こんな男にそう何度も
いいようにされてたまる
もんですかっ
生意気な口を訊けないように
してあげるわ...っ

くっ
思わぬ展開に
なってしまったが
これはこれで...
すげえ興奮する

へへっ
もうマン肉ひくひくしてますよ
もうイキそうなんじゃないですか？

んううッ♡

あ…あなたこそ…っ
睨丸上がってきてるわよ

さっさと精液出して
満足しちゃいなさいな♡

お互いがお互いイク寸前
なのは明らかだった

もはや意地の張り合い…

自分がイク前に
イカせることで
頭が一杯の俺たちは
一心不乱に相手の
弱点を攻め続け…







はあ...はあ...はあ...
こ...こんなものね...

ふ...ふふんっ
経験が違うんだから
よめから私に任せていけば

あ...危なかった...
なんとか先に
イカせられたわ...

それにしても本当に
よく出るわね...
昨日あれだけ出してあげたのに
どうなってるのよ...

ぐう...ぐう...
お



本当に呆れたちゃんぽね…
まだ固いまんまじゃないの…

今日は満足するまで
頼みますよ？

い…いいわ
おまんこで扱いて
あげるから今度は
じっとしてなさいな

…うーん
わかりましたよ
勝ったのは
兵藤さんですから
今日の所は従いましょう

ふふっ
素直ね
それでいいのよ♥

ドキ

ドキ

ドキ

ふふ

ふふ





♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

くっ

やっぱり兵藤さんのおまんこ...すげえいいっ

グニッ

グニッ

んっ♡
んっ♡

そ...
そうなの...?

ええ...
優しい刺激なのに
ギュッて締まって...

それでいて精子が欲しそうに
ニユルニユルと
吸い付いてくるんですよ

ズグ

ズグ

ズグ

ズグ

グニッ



まあ確かに...
本来嫌いな人間の
精子なんて欲しく
ないだろう

だ...誰があんたの
精子なんて
欲しがらないのっか

は...でも実際
そうなんです

せ...精子が
欲しそうって
—
そんなわけ
ない...っ



だがそんな男の精子を
絞り出そうと一生懸命
マンニッコしてくれるんだから
「常識」ってのは恐ろしいねえ

そんなこと言って...
ほんとは俺の精液
欲しいんで...しょッ

んあぁッ

ちよー
ちよー

はぁ

あ♡

パッパッ

パッパッ

誰が動いていいって
ああんっ♡

フォッ

フォッ

ズッ











うきゅうきゅうッ♡♡♡

また…
またイグうッ♡

今までで一番大きいの
キちゃうううッ♡♡♡

くっ
もう俺もイキます
から…一緒に
イキましょう—っ

頑張れっ
頑張れえっ

ふく…っ
ふううんっ♡

おっ♡

おほんっ♡

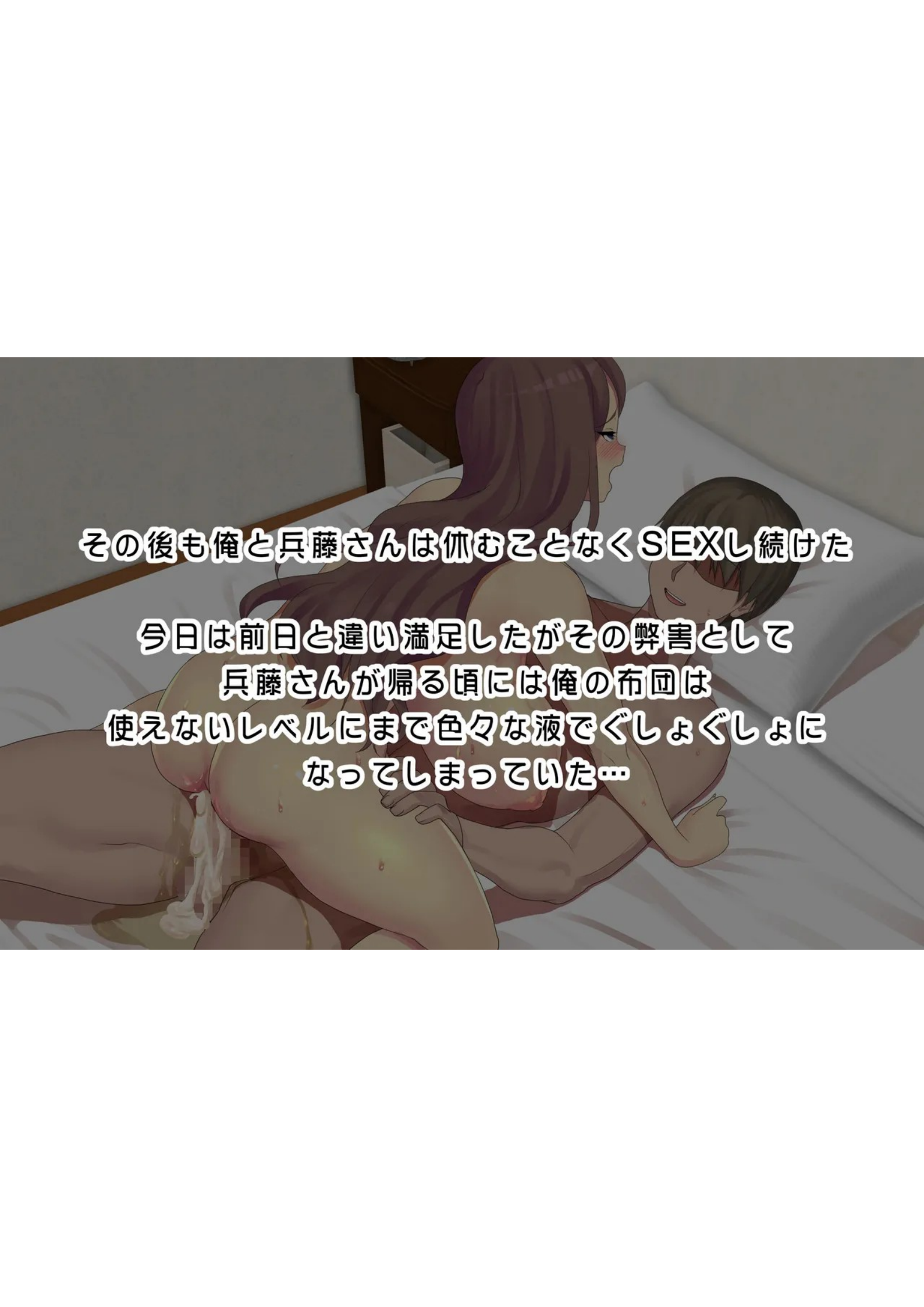
おっ♡

おお—
おおおおっ♡♡♡♡

ズンッ
ズンッ
ズンッ
ズンッ







その後も俺と兵藤さんは休むことなくSEXし続けた

今日は前日と違い満足したがその弊害として
兵藤さんが帰る頃には俺の布団は
使えないレベルにまで色々な液でぐしょぐしょに
なってしまっていた…





あれから…
俺と兵藤さんは既に
数えるのが面倒な程
何日も身体を重ねていた

回数を経て兵藤さんも
俺との行為に慣れたのか
今では素直に俺に
身を任せるようになっていた

ああああ…

そんなこと言ってる
暇があるなら
早くイカせなさい…っ

う…うるさいわねっ
愛撫されれば
誰だってそうなるのよっ

舐めても舐めても
どんどんマン汁
出てきますよ？

あ

あ

あ

は

ん

ん



はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

どうです
最初の頃より
上手くなった
でしょう？

ははっ
兵藤さんの反応が良いんで
つついイジリたく
なっちゃうんですよ…
色々…ね♡

んあっ♡

あっ♡

あっ♡

ああっ♡

んく…っ♡
そんなこと
言えるわけ
—

ううんっ♡

ああ…悔しい…
今日もうコイツの
ペースになっちゃってる…♡

はっ♡
はっ♡
はっ♡



ええ
言ってくださいよお
じゃないとまた
イカせちゃいますよ？

言う——っ
いうからああ…
くひんッ ♥

き…
気持ちいい
わよおっ ♥

き…気持ち良すぎるから
クリトリスと膣を同時に
こねくり回さないでええっ ♥ ♥

くひんっ ♥ ♥

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ





ふああ...っ
あああんっ♡

悔しい...っ
どうして私が...
あんたなんかに...いいッ♡♡

は♡

あ♡

あ♡

ん♡

あ♡

ああ...
いいようにされてる...

ちよっと前まで
見下していた男に
今は私が翻弄され
ちゃってるう...っ♡

ぐわんぐわん

うわん

うわん



でも兵藤さんも
大分感じやすく
なりましたよね

ううー
うくうんッ

確かに…
最初の頃より明らかに
感じやすくなってる…

あなたが…毎日毎日
私の身体をイジくりまわすから…
でしょう…っ♡

もう…
とっくに夫とのSEXの
回数超えちゃってる…





ぐちゃぐちゃ

もうダメ…
ダメなのお…っ♡

これ以上焦らされ
続けたら頭おかしく
なっちゃううう♡

ああ…
ああ…ッ♡♡

もっと…
もっと強く
イかせて頂戴っ♡

お願い…
お願いだから
もう挿れて…っ♡

あれ：もう降参ですか？
本来なら兵藤さんが僕を
沢山イカせてくれなきゃ
いけないのに

もう――
あれだけ愛撫しておいて今更
何言ってるのよっ

わかってるからっ
後でちゃんと沢山
又いてあげるから

今は私を
イカせて
頂戴――っ♡

ははっ
わかりましたよ
あ：じゃあもう一つ
今日は兵藤さんのこと
下の名前で読んで
いいですか？

ズッ

ドキ

ドキ

ドキ



——っ
「……」
な……なんで
そんなこと……

いやあ
これだけしてるのに
未だに名字呼びも
アレかなあと
思いました
兵藤さん下の名前は
なんて言うんです？

ユ……ユリよ……
よ……呼びたいなら好きに
呼べばいいじゃない

へへっ
了解——
それじゃあ行きますよ……
ユリさんっ





コ…コレえ…っ♡♡
挿れただけで背筋に
電流がびりびりってええ♡

ありや
挿れただけで
イッてるんですか

は♡♡

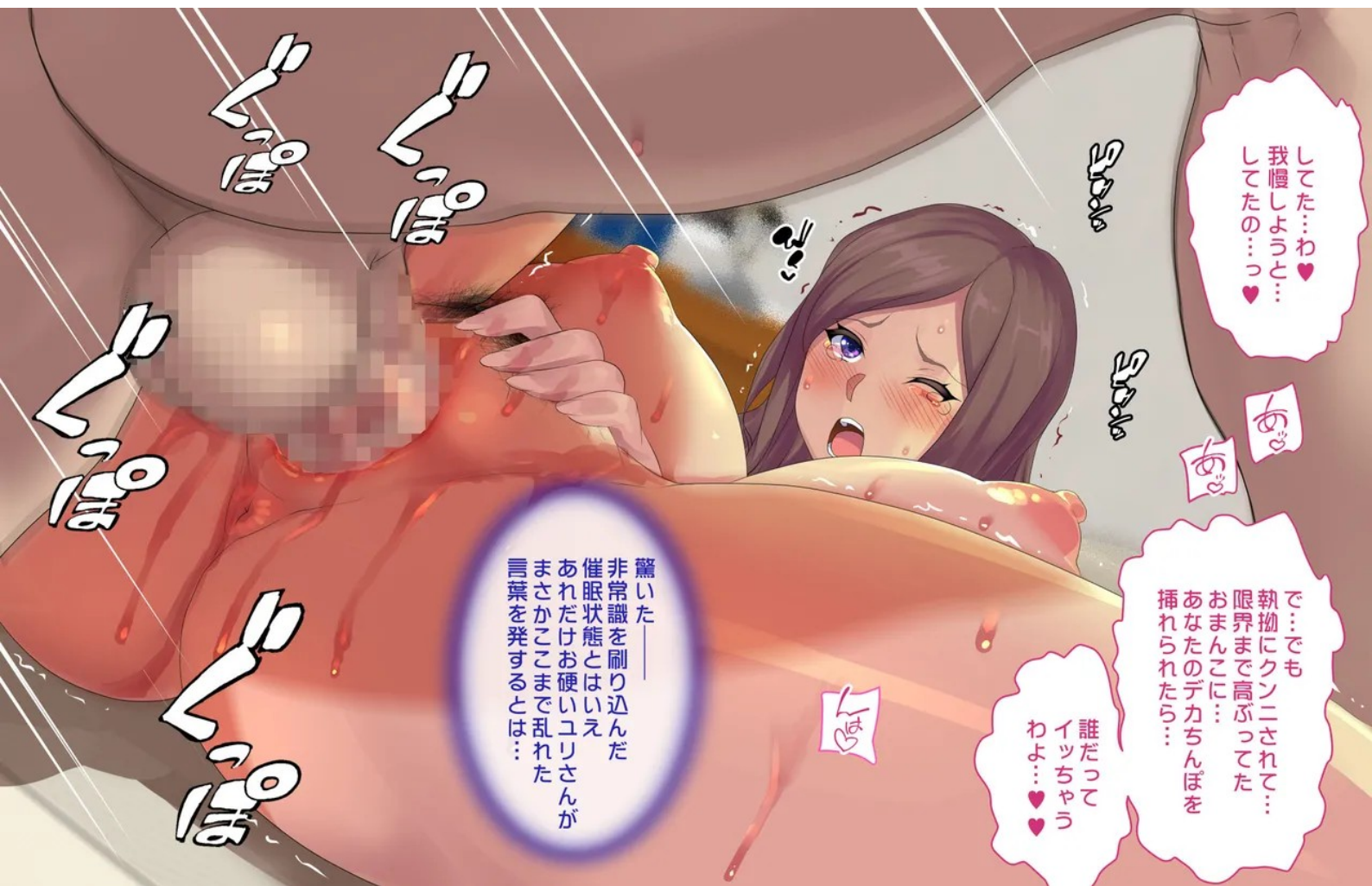
は♡♡

は♡♡

イ…った♡
イツちゃ…ったああ♡

あははっ
我慢が効かないなあ
ユリさんは

もっと我慢してから
イッた方が絶対
気持ちよくなりますよ？



してた…わ♥
我慢しようと…
してたの…っ♥

で…でも
執拗にクンニされて…
限界まで高ぶってた
おまんこに…
あなたのデカちゃんぽを
挿れられたら…

誰だって
イツちゃう
わよ…♥♥

驚いた—
非常識を刷り込んだ
催眠状態とはいえ
あれだけお硬いユリさんが
まさかここまで乱れた
言葉を発するとは…



へえ
そうだったんですか

正直愛撫もちんぽも
自信なかったんですが
そんなに良かったんですね

……わ……私だって
夫以外としたこと
なんて……
なかった……けど……

けど……？

い……今までのSEXで
こんなにイッたこと……
ないんだもの……♡

へ……へえ……っ



ユリさんは旦那さんとのSEXより僕の方が気持ち良かったんですね

か…勘違いしないでよっ

身体が反応するのとSEXというものの良さは全然別物なんですからっ

夫とのSEXでは愛を確かめ合いながら気持ちを満たしているのよっ

ははっなるほど

妬けますがそれは確かにその通りでしょうね



でも――

逆に言えば
身体は僕とのSEXの
方がいいってことですねっ

――ッ♡♡
そ…それは
…は…ああ…んくうッ♡

はッ♡♡

ズッ♡♡

ゴッ♡♡

ゴッ♡♡

ゴッ♡♡

ゴッ♡♡



言って下さいよっ
言ってくれなきや
ちんぽ扱いちゃいますよっ

ほらほら
どうなんです？

やめますよ——っ
正直に言ってくれなきや
ほんとにこのまま
やめちゃいますよっ

催眠状態という安心感
そしてある意味
コンプレックスでもあった
女性への自信も重なり
俺は驚くほど強気になっていた



わ…わかった——
言う…言うからああ…っ♡

旦那のおちんちんなんかより
あなたのデカチンポの方が
百倍気持ちいいのおっ♡♡

あ…あなたとのSEX…ッ
あなたとのSEXの方が
気持ちいい——ッ♡♡♡



太くて固くて…
精液の量だって全然違う…っ

あなたのチンポが
膣内に挿入すると
五分も持たずに
イッちゃうの♡♡

SEXでここまで
気持ち良くなるなんて
知らなかった♡♡♡

だからやめないでっ♡
お願いだからあなたの
チンポでかき回してっ♡

もっともっと
イカせ続けて欲しい
のおおっ♡♡♡♡



ははっ
最高に興奮するね

ユリさんがこんなに
エロい人だとは思
わなかったよ

今あなたの為
にどんどん精液
が作られてますよっ

あはっ
嬉しい…ッ
♥

出して—ッ
私のおまんこでじゅぽじゅぽ
コスってあなたの精液
ドビュドビュ子宮に
流し込んでええっ♥♥♥



しゅご...っ♥
キシゅしながらの
おちんぼしゅごいのお♥

んむううっ♥

すごっ
キシゅしながらだと
更にマンコがっ
締まってくるっ



はっ
ユリさんキスも
好きなんですネ

ん…うふうん…っ
好き…っ
キスしゅきいっ♡

キスしながらだと
凄く幸せな気持ちに
なるのぉ♡♡

この間までキスは
拒んでたのに…
どうして今までは
拒んでたんです？

だって…
だってええ…



あなたとキスしちゃったら
あなたのおちんぼのことしか
考えられなくなりそうで…

夫が頭の中からいなく
なっちゃうかと
思ったんですものお…♥

ははっ
なるほど

じゃあ実際今
ユリさんの中に
旦那さんはいるの？

ああんっ ♥
意地悪
言わないでえ ♥

今だけ…っ ♥
今だけ ♥
だからあっ ♥

あなたの精液を
注いで胃ってる間
だけだからあっ ♥ ♥



へへっ
じゃあ旦那さんの
為にも早く今日の分
出し尽くさないとな

ああんっ
きて——ッ♡♡

精液私の子宮に
叩きつけて
ええっ♡♡

ムギムグ

イ、イ、イ

イ、イ、イ

イ、イ、イ

イ、イ、イ

イ、イ、イ

イ、イ、イ

くっ
早速一発…っ
膣内に出すよっ

ムギムグ
ムギムグ
ムギムグ



はあ♡
あ♡
あ♡
あ♡
あ♡

ぐ
ぐ
ぐ
ぐ
ぐ

ぐ
ぐ
ぐ
ぐ
ぐ

あ♡

あ♡

出てるぅっ♡
精液どびゅどびゅ
私の奥に当たって
るぅっ♡♡♡





今更何言ってるんですか
最近のユリさんは常に
フェロモン漂わせてますよ？

このマンションにいる
男の人全員気付いて
るんじゃないですかね

何か心当たり
ないんですか？

そ…そういえば……
この間……
夫が久しぶりに
SEXに誘って…あっ♡

ははっ
間違はなくそれが
原因ですよ



久しぶりの
SEXはどうだった
んですか？

き…気持ち
良かった…♡

なんだか今までより
強く求められて…♡

まだ愛されてるんだ
って思えて凄く
幸せだったの…♡

うーん…
それはいい話
ですね

でも…
でも…

…？
でも？

でもね…
…イケなかったの…

あの人すぐに
イッちゃって…
しかもそのまま
寝ちゃった…

にゅ！

にゅ！

にゅ！

にゅ！

にゅ！

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡
はっ♡



ありやりや
そんなにお疲れ
なんですかねえ

ユリさんイカせるの
なんて簡単だと思う
んだけどなあ
ほうっ

あひんっ♡

ココ擦り続ける
だけで簡単に
イッちゃうよね

らめらめらめっ
そこすぐ
イッちゃー

んんんんんッ♡♡



イッてるマンコの中って
ほんとに精液搾り取ろうと
絡みついてきて凄い
気持ちいいんですよ

そ…
そうなんだ…♡

ふふ…♡
なんだかはしたなくて
恥ずかしいわ♡



ははっ
俺の子供欲しがってる
みたいで嬉しいん
ですよ〜

!?

ロキ

たぶ

タッポ

タッポ

タッポ

タッポ

たぶ

ば...ばあ...ツ♥
そんなこと...ツ
あるわけ
ないれしょお...

おほ

ふふっ
わかってますよ
性欲処理ですからね
僕が勝手に思ってる
だけですから



そ...そうよお...
んふうッツ♥
あくまで性欲処理...
なんだからあ...ッ♥

ふふっ
でもそうねえ...♥
私達のSEXじゃあ
絶対子供は出来ないけど...

それで気分が盛り上がる
なら孕ませるつもりで
思いつき子宮に精液
流し込んでちょうだい...ッ♥







こんな状態で
射精されちゃったら
射精され続けちゃった
らああ——♡♡♡

本当に妊娠
しちゃうかも——♡
あなたの子供孕んじやう
かもおお♡♡♡

ドクン
ドクン
ドクン

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

グ
グ
グ

へへっ
イキますよっ

子供出来たら
ちゃんと産んで
下さいねっ

ええっ♡
そんな……ッ
でも……
でもおお♡♡♡



大丈夫ですよ
旦那さんとも
したんですよ？

なら100%旦那さんの
子供なんですから
安心して産んで下さいねっ

おおおおお

ぐわ

ぐ





でもまだまだ
出し足りない
んでしょう...? ♥

はあ...

はあ...

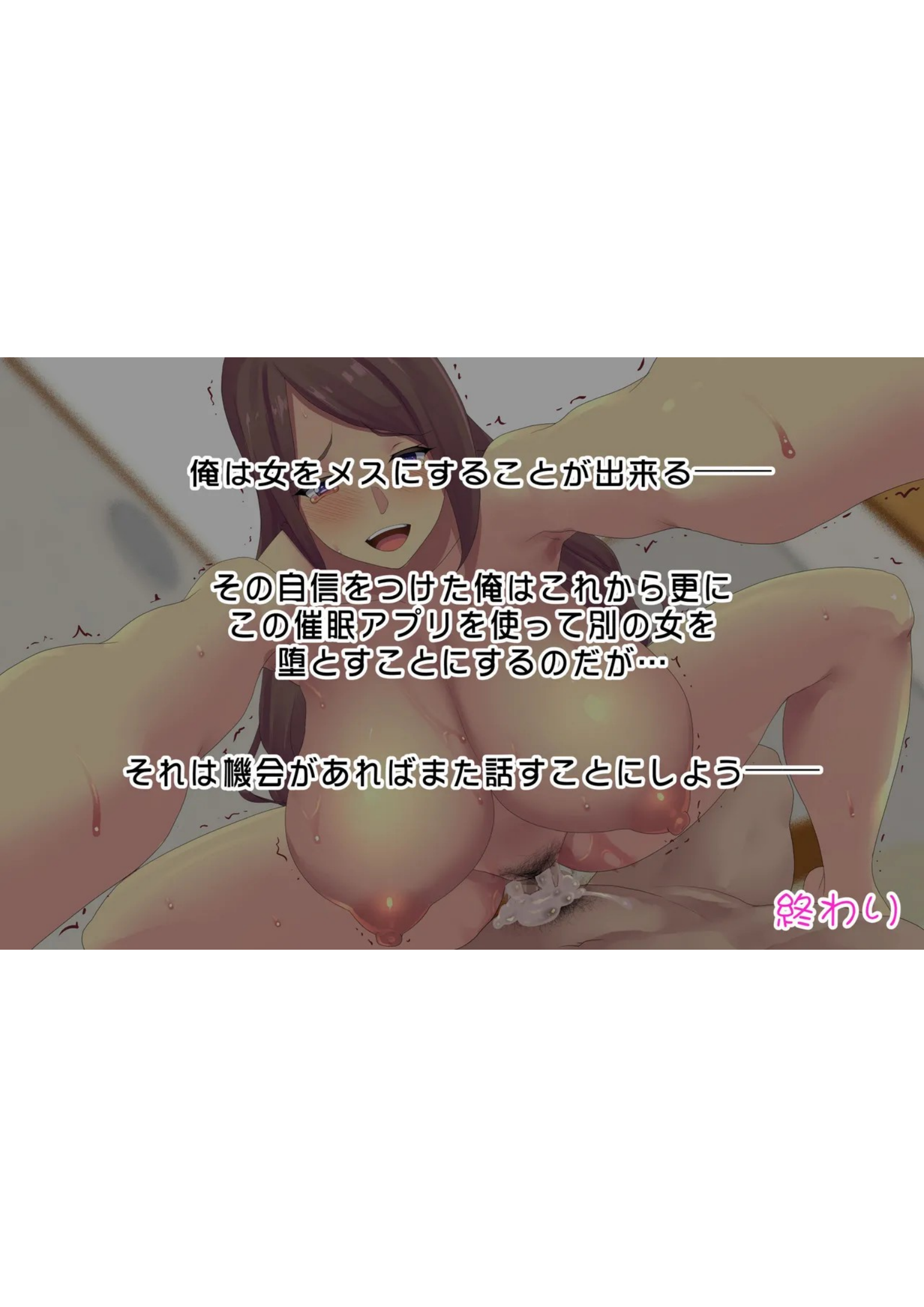
!!

ははっ
本当に俺のことが
わかってきたね

それじゃあ
二回戦...
といきましょうか

はあ...

ええ...
今日こそはあなたの
精液からっぽになるまで
ヌキきってあげるわ ♥♥



俺は女をメスにすることが出来る——

その自信をつけた俺はこれから更に
この催眠アプリを使って別の女を
堕とすことにするのだが…

それは機会があればまた話すことにしよう——

終わり

